

輸入タコに混入した骨状の異物

主幹兼副課長 上田幸男

Key word ; タコ, ネズッポ類, 前鰓蓋骨, 底びき網

2011 年 6 月に県内の水産加工会社から中国産タコに混入した棘状の異物について鑑定依頼があり、ウニの棘であったことを水研だより 79 号で紹介しました(上田, 中西 2011)。2014 年 1 月に再び同じ業者から「中国から輸入したタコを加工し、納品したところ商品に骨のような異物が混入していたとクレームが付き、鑑定してもらえませんか」と依頼がありました。「前回同様、輸入した原材料のタコに付着あるいは筋肉中に刺さっていたものと思うのですが?」と話されていました。



写真1. タコの加工品に混入したネズッポ等底魚類の鰓蓋骨等

マイクロスコープで 50 倍に拡大したところ、その異物は長さ 9mm 程度で、私がこれまで見たことのないものでした(写真 1)。見方によっては甲殻類の殻か手足の一部のように見えるので、甲殻類の分類に詳しい徳島大学総合科学部の濱野龍夫教授と(独)水産総合研究センター中央水産研究所の阪地英男グループ長に写真 1 を添えてメールで相談しました。お二方からはすぐに返事があり、

濱野先生からは「甲殻類のパーツではなく、底魚類の鰓蓋骨ではないか」、阪地グループ長からは「ネズッポなど硬骨魚類の鰓蓋骨の一部だろうと思うので、魚類学者に見せればわかるだろう」と返事をいただき、魚類の分類の専門家である国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ研究主幹兼コレクションマネージャーの篠原現人先生と高知大学教育研究部自然科学系理学部門の遠藤広光先生に写真による鑑定を依頼していただきました。篠原先生からは「ネズッポ類の前鰓蓋骨である」、遠藤先生からは「ネズッポあたりの主鰓蓋骨棘で、底びき網で採れたイカやタコには、ネズッポの棘が食い込んでいることがあります」とコメントをいただきました。さらに阪地グループ長からは「写真1の下側の写真はオニゴチとかアネサゴチなどの特に眼の下から後方の骨に似ている」と教えていただきました。



写真2 上図は播磨灘で漁獲された全長9.5cmのネズッポ類とその右前鰓蓋骨(赤丸内)。下図は全長7.5cmのネズッポ類から取り出された右前鰓蓋骨。

私は魚類の専門家でないので前鰓蓋骨が鰓のどの部分に位置しているかわからないので、平成 26 年 2 月 16 日に播磨灘で漁獲された全長 7.5 ～ 9.5cm のネズッポ類(写真 2 上)の前鰓蓋骨と鰓付近の骨(写真 2 下)をとりだしてマイクロスコープで観察してみました。写真 1 上の混入物とは棘の数や形状がやや異なりますが、ネズッポ類特有のほぼ似た前鰓蓋骨を確認することができました。ネズッポ類の前鰓蓋骨特有の釣り針の返しのような棘が備わっています。

今回持ち込まれた骨の種名までは確定できませんでしたが、ネズッポ類もしくは底魚類の鰓付近の骨であることは間違いないようです。

依頼者にこの結果をお知らせしたところ、異物が加工の過程で混入したものではないことがわかり安堵されていました。

おそらく、ネズッポ類はタコや大型魚類に捕食されないように鋭い前鰓蓋骨が発達したものと想像します。鑑定していただいた先生方が言われるように捕食の過程あるいは底びき網で漁獲されたネズッポ類の前鰓蓋骨がタコに突き刺したのかもしれない。

これからもタコにこのような異物が混入する可能性があると思いますので水研だよりに書き留めておきたいと思います。

快く鑑定していただいた先生方に記して謝意を表します。